

31

杉山流按摩術の流儀書『杉山真伝流按摩舞手』 および大澤周益の残した書籍類について

大浦 宏勝, 長野 仁, 市川 友理

北里大学東洋医学総合研究所 医史学研究部

【緒言】平成25年に古書店を通じて『杉山真伝流按摩舞手』及びその筆記者大澤周益の書き残した資料を入手した。この書はこれまで知られていなかった杉山流按摩術の手技を伝える流儀書であると同時に、その解説および大澤周益に関する調査を通じて、杉山流に関する他書との関連性と杉山真伝流御用学問所の実態をうかがう記述を発見したので報告する。

【調査結果】流儀書『杉山真伝流按摩舞手』は、第一巻「杉山真伝流按摩舞手」(13葉)、第二巻「杉山真伝流按腹提綱」(7葉)、第三巻「杉山真伝流按摩舞手」(17葉)を合本したものである。そこには、(1)頭部24手、(2)肩之部24手、(3)脊部48手、(4)胸部21手、(5)腹部19手、(6)小腹部9手、(7)従肩至肘之部22手、(8)従臂至腕之部21手、(9)従腰至足之部22手、(10)従股至跗之部24手、(11)従膝至足指之部21手、合計255種の「舞手」と称される按摩手技が書かれている。各巻の巻末識語から、大澤は天保8年5月9日から翌9年1月19日にかけて、和田春孝忠順の命をうけ杉山真伝流按摩術の正式な流儀書として、この書を筆記したことが知れる。

また、この書とともに『鍼灸大和文 卷之下』(砭寿軒主庵著)が未装本としてあったが、巻頭識語には「行鍼御持醫 関東初代惣検校 杉山即明院先生 御著述 杉山真伝流御用学問所 御預惣宰 行鍼御醫官 和田春孝忠順先生 御口授 相伝門人免状 大澤周益吉貞 筆記」とあり、巻末識語には「夫れ『鍼灸大和文』は、女子に教へ給はんが為に、流祖大先生(杉山和一)肝胆を砕せられ和解して著し給ふ御教書也。不佞(大澤周益)、天保六年八月十有二日、和田忠順君先生の御前、三祖神靈(島浦和田一)の御影前に於て神文誓詞を命せられ候上、御面授口授の書也。読者、其の近きを以て忽かにすべからざるもの也。抑、東都列侯の後宮へは、男子の出入を禁ず。故に夫人、貴妃、或は侍女、婢女の治療の為、女子の鍼工を召さるる也。近頃、御門下に、女子の鍼工・錦江春銀あり。始めにこの『大和文』を以て、教示し給ふ也。男子の学書にあらざると雖も、佗日、婦学の一助に備ふ而已。御面授の縷々、記憶し難し。遺失せんことを恐れ、筆記し畢んぬ。天保七年春王正月 米府藩 大澤周益 謹誌」とある。杉山真伝流家元である和田家としては、『療治大概書』の元本である『大和文』の由来について杉山の著述と言わざるを得なかったこと、また、女子鍼工を育成し大名屋敷の婦女への治療に当たらせていた事実がうかがえる。

その他、筆跡鑑定の結果、昨年の医史学会にて報告した米沢市立図書館蔵『杉山先生御伝記』(著者未詳)と同じ筆跡であることが判明し、武田杏雨書屋蔵『杉山真伝流鍼治手術詳義』(和田先生口授、大澤周益筆記)との関連性も明らかとなった。

【考察】大澤周益は米沢藩の臣下として江戸に出、鍼術修業のため杉山真伝流家元である和田家入門、和田春孝忠順を師とし鍼術および按摩術の免状を授かった。そして、天保年間に師の口授を受け、『鍼灸大和文 卷之下』『杉山真伝流按摩舞手』『杉山真伝流鍼治手術詳義』『杉山先生御伝記』を筆写した。

【結語】『杉山真伝流按摩舞手』は、江戸期按摩の主流であった杉山流按摩術を知る上で唯一の重要資料であり、今後継続して手技内容の解明を進めたい。また、和田春孝と大澤周益との師弟関係および著述背景が明らかとなったことにより、『杉山真伝流鍼治手術詳義』『杉山先生御伝記』の内容をより確実に分析研究することが可能となった。